

## MFJ スーパーモト競技会 主催者各位

### 2020MFJ スーパーモト公認競技会 運営にあたって（主催者向け）

2020 年度スーパーモト公認競技会を開催いただくにあたり、規則の変更点と運営に関する統一確認事項をご案内いたします。なお、詳細につきましては「2020 年 MFJ 国内競技規則書」を必ずご確認ください。

★2020 変更/追加事項は赤字にて記載

#### 2020 年度の主な変更点＜抜粋＞

##### ★ 全日本 S2 クラスのレースフォーマット

2020 年の全日本選手権 S2 クラスは、参加台数増加・競技種目普及策として決勝 2 レース制とします。

- ・ レースフォーマットは S1PRO クラスと同じ形式とする。
- ・ ポイントも決勝 2 レースそれぞれに付与され、表彰も S1PRO 同様に決勝レースごとに実施する。

##### ★ エリア選手権の出場車両の緩和

スーパーモトエリア選手権は、参加者増加を図るため、2020 年より出場車両は MFJ 公認を問わず出場可能となりました。ただし、スーパーモト技術規則に合致している必要があります。

##### ★ 主な規則改定箇所

- 赤旗中断後の再レース周回数について 【競技規則 28-1】
  - 本来のレース距離の 50%未満で赤旗中断されたレースでトップのライダーが走行完了した残り周回数で再レースを行う。
  - 再スタートが不可能な場合は、
    - ・ トップのライダーが本来のレース距離の 50%以上が完了していればレース成立とし、フルポイントが与えられる。
    - ・ トップのライダーが3周以上かつ本来のレース距離の 50%未満の場合は、正規の 2/3 ポイント（小数点第 2 位以下四捨五入）が与えられる。
    - ・ トップのライダーが2周以下の場合はレース中止となる。ただし、予選があった場合、ポイントは予選結果（決勝グリッド表）に基づいて正規のポイントの 1/2 が与えられる（小数点以下第 2 位は四捨五入）
- ジャンプスタートに科されるストップ＆ゴー・ペナルティについて【競技規則 24-2-2-5】
  - ジャンプスタートに科されるストップ＆ゴー・ペナルティは、レース距離 50%未満で赤旗中断された後の再レースでは消滅する。
- ハンドルバーパッド【スーパーモト技術規則 4-7-1】（2019.7 月公示済み）
  - ハンドルバーパッドに埋め込みのラップタイムモニターの取り付けは禁止する。
- オンボードカメラ取付位置 （2019 年 7 月公示済み）
 

オンボードカメラの取り付け位置について、従来の前後フェンダー上に加え、フロントゼッケンプレート後部（ハンドルバーとの間で、ハンドルバーパッドの高さを超えない高さの範囲）も認めらる。

##### ★ ライセンス昇降格基準の設定 【国内競技規則 付則 1 MFJ ライセンス昇格・降格に関する規則】

A 級ライセンス所持者の方に技量を維持していただくため、他種目同様に 2020 年度からスーパーモトライセンスにも自動降格を適用します。降格基準については、欠格期間 3 年（ライセンス未継続期間が 3 年）で B 級に降格となります。

なお、上記降格者の再昇格基準（降格した年度内のみ）についても下記の規則が適用されます。

- （1）B 級に降格した場合、エリア選手権シリーズにおいて優勝した者。
- （2）その他スーパーモト委員会で特に必要と認め承認した者。

⇒詳細は次ページ以降参照

## 1. 2020 国内スーパーモト公認競技会

### 1) 概要

2020 年は、国内公認競技会として、「全日本スーパーモト選手権」「スーパーモトエリア選手権」が開催される。スーパーモトエリア選手権は、東日本エリア（北海道・関東・東北）、中日本エリア（中部・近畿）、西日本エリア（中国・四国・九州）の 3 エリアにて開催される。

#### ■ 2020 全日本スーパーモト選手権シリーズ開催日程

|       |           |                   |
|-------|-----------|-------------------|
| 第 1 戦 | 4 月 5 日   | 茂原ツインサーキット(千葉)    |
| 第 2 戦 | 5 月 17 日  | HSR 九州(熊本)        |
| 第 3 戦 | 6 月 14 日  | エビスサーキット(福島)      |
| 第 4 戦 | 7 月 12 日  | 世羅グリーンパーク弘楽園(広島)  |
| 第 5 戦 | 8 月 9 日   | スポーツランド SUGO (宮城) |
| 第 6 戦 | 9 月 20 日  | 名阪スポーツランド(奈良)     |
| 第 7 戦 | 10 月 18 日 | 美浜サーキット(愛知)       |

#### ■ 2020 スーパーモトエリア選手権開催日程 (★印は決勝 2 レース制)

|          |       |           |              |
|----------|-------|-----------|--------------|
| ○ 東日本エリア | 第 1 戦 | 4 月 5 日   | 茂原ツインサーキット   |
|          | 第 2 戦 | 6 月 14 日  | エビスサーキット     |
|          | 第 3 戦 | 8 月 9 日   | スポーツランド SUGO |
| ○ 中日本エリア | 第 1 戦 | 5 月 10 日★ | 美浜サーキット      |
|          | 第 2 戦 | 9 月 20 日  | 名阪スポーツランド    |
|          | 第 3 戦 | 10 月 18 日 | 美浜サーキット      |
| ○ 西日本エリア | 第 1 戦 | 5 月 17 日★ | HSR 九州       |
|          | 第 2 戦 | 7 月 12 日  | 世羅グリーンパーク弘楽園 |

### 2) コース設定

スーパーモト競技規則<sup>2</sup> および「MFJ スーパーモト コース設定ガイドライン」に準ずる。

【⇒ 13 ページ 5. コースの項参照】

### 3) 開催クラス

|        | S1 PRO | S1 OPEN | S2 | S3 | 承認 S4/ME |
|--------|--------|---------|----|----|----------|
| 全日本選手権 | ●      | ●       | ●  |    |          |
| エリア選手権 |        | ○       | ○  | ○  | △        |

### 4) 参加車両

#### ◎ エリア選手権の出場車両の緩和

スーパーモトエリア選手権は、参加者増加を図るため、2020 年より出場車両は MFJ 公認を問わず出場可能となりました。ただし、スーパーモト技術規則に合致している必要があります。

#### ○ 全日本選手権

S1 OPEN クラスに参加するアンリミテッド区分の車両を除き、MFJ 公認車両に登録されている車両に限られる。(スポーツ専用車両モトクロスまたはモト、または一般市販車オフロードタイプ)

※排気量区分⇒国内競技規則書 P386 参照

### 5) 有料スポーツ走行

土曜日の走行については、主催者の判断に任せて運営され、選手の参加も任意とする。

## 6) エントリー

### (1) エントリー期間

全日本スーパーモト選手権のエントリー期間は国内競技規則書に定める通りとする。  
(エリア選手権は、主催者ごとに別途定めることも可)

### (2) エントリー料 (2020 年シリーズ全戦統一料金とする。)

- **全日本スーパーモト選手権** … 17,600 円 (本体価格 16,000 円+消費税(10%)1,600 円)
- **スーパーモトエリア選手権** … 13,200 円 (本体価格 12,000 円+消費税(10%)1,200 円)

### (3) 全日本 S1PRO クラスのワイルドカード

全日本選手権 S1PRO クラスは、最大27名の登録制です。(ゼッケン登録時に確定)。

※登録ライダーは、当該年度中の他クラスに出場することはできない。

ただし、**大会ごとに当該コースの最大グリッド数を上限としてワイルドカードが認められる**。当該年度すでに他のクラスに出場実績のあるライダーはエントリーできない。

出場可否は主催者判断する。(エントリーライダーのレベル、大会のプロモーション等配慮)

## 7) ピットクルーの登録 / ピットロード・グリッドの立ち入り制限 【規則書 P.351 参照】

### ① ピットクルー登録

スーパーモト公認競技会において、ピットクルー作業を行う者は、エントリー時にピットクルー登録が必要。

- 登録可能人数: **ライダー1 名に対し最大 4 名まで** (MFJ ピットクルーライセンス所持者)
- 登録されたピットクルーは、ピットクルーライセンスおよびピットクルーパスの装着が義務づけられます。  
(装着方法は主催者の指示に従うこと)
- **エントリー後のピットクルーの追加はできない**。ただし**参加受付時に変更は可能**。(変更手数料 1000 円)

### ② ピットクルー以外の立入制限エリア

- **スターティンググリッド**: 登録されたピットクルーと傘持ち以外の立ち入りが制限されます。
- **ピットロードおよびサインエリア**: 登録されたピットクルー以外の立ち入りが制限されます。

※ライダーパスだけでは立ち入り不可! (必ずピットクルー登録されていること)

⇒ **立入規制エリアは施設によって異なるため、大会ごとに公式通知等で公示してください。**

## 8) 公式シグナル (フラッグ) の意味の確認 【詳細: 規則書「公式シグナル」参照】



### 黄旗 (振動)

**速度を大幅に減速、停止準備、追い越し禁止、大幅に減速してジャンプを通過する。**  
(黄旗区間は、黄旗振動～事故 (転倒) 地点までとする。)



### 赤旗 (振動)

すべてのライダーは低速で最大限の慎重さと注意をもって**ピットレーンに戻る**。



**青旗** 後方よりペースの速い車両が接近し追い越される状態にある。

**統一運用** トップに追い越されるライダーに対し提示する。**基本的にメインポストのみ**。

## 9) ジャンプスタートの判定と罰則の与え方

### <ジャンプスタートの定義>

スタート合図が行われる前に(シグナルの場合はレッドライトが点灯している間に)停止位置から車両が前進し

た場合。

### <ジャンプスタートの罰則について>

審査委員会の同意を得た上で競技監督の決定により、下記のいずれかのペナルティが科される。

優先順位で以下の通り。

#### ① ストップ&ゴー

「ペナルティーストップボード」(右図)を提示する。※この時、黒旗は併用しない。

当該ライダーは速やかにピットインし、オフィシャルの指示された場所で一旦停止する。

3 回提示してもピットインせずペナルティを実行しなかった場合は失格となる。



#### ② 競技結果に 30 秒加算

#### ③ 競技結果から1周減

※ジャンプスタートに科されるストップ&ゴー・ペナルティは、レース距離 50%未満で赤旗中断された後の再レースでは消滅する。

## 10)レース進行関連

### ■ 赤旗中断後の再レース周回数についての運用 【詳細はスーパーモト競技規則 28-1】

- 本来のレース距離の 50%未満で赤旗中断されたレースでトップのライダーが走行完了した残り周回数で再レースを行う。(2 度目の赤旗の際は最低 5 周)
- 再スタートが不可能な場合は、
  - ・ トップのライダーが本来のレース距離の 50%以上が完了していればレース成立とし、フルポイントが与えられる。
  - ・ トップのライダーが3周以上かつ本来のレース距離の 50%未満の場合は、正規の 2/3 ポイント(小数点第 2 位以下四捨五入) が与えられる。
  - ・ トップのライダーが2周以下の場合はレース中止となる。ただし、予選があった場合、ポイントは予選結果(決勝グリッド表)に基づいて正規のポイントの 1/2 が与えられる(小数点以下第 2 位は四捨五入)

#### 要するに・・・

- 1 度目の赤旗後の再レースについては、赤旗中断されたレースでトップのライダーが走行完了した残り周回数で再レースを行う。(規則 28-1)。
- 2 度目の赤旗後の再レースについては、最低周回数 5 周とする。【内規】
- 再レースを合算してトップのライダーが本来のレース距離の 50%以上が完了していればレース成立としフルポイントが与えられる。
- 再レースを合算してトップのライダーが本来のレース距離の 50%未満の場合は、2/3 ポイント(小数点第 2 位以下四捨五入) が与えられる。
- 決勝 2 レースの場合のポイント付与規則(32-8-1)についても上記を適用し整合する。
- 「トップのライダー、およびトップのライダーと同じ周回数を走っていた残りのライダー全員」の表記は「トップのライダー」に変更する。

### ■ ジャンプスタートに科されるストップ&ゴー・ペナルティについて【規則 24-2-2-5】

- ジャンプスタートに科されるストップ&ゴー・ペナルティは、レース距離 50%未満で赤旗中断された後の再レースでは消滅する。

## 2. 全日本スーパーモト選手権について

### 1) レースフォーマット

※全日本 S2 クラスは 2020 年より決勝 2 レース制で開催する。

#### (1) 決勝 1 レース制 (全日本 S1 OPEN)

- 公式練習 → 計時予選 → レース形式の予選(ヒートレース) → 決勝レース2

#### (2) 決勝 2 レース制 (全日本 S1 PRO / S2)

- 公式練習 → 計時予選 → 決勝レース1 → 決勝レース2  
(※「ヒート」ではなく「レース」で統一)
- **決勝 2 レース制のスターティンググリッド決定**  
 決勝レース 1 : 予選結果順  
 決勝レース 2 : 決勝レース1の結果順。
- ポイントは、決勝レースごとに付与される。

#### (3) 基本とするレース時間

- 公式練習 : 10 分以上
- 計時予選 : 10 分以上
- 決勝レース : S1PRO は 1 レースあたり **15 分以上**を基準とする周回数。

※ **公式練習の参加は自由とする。(2018 より規則明記)**

⇒ 計測機器チェックなどの理由により義務化する場合は公式通知に記載してください。

※ “予選通過者”の統一解釈

予選出走台数が各コースのグリッド数を上回らない限り、予選ヒートレースは決勝レースのグリッド決めのためのレースと解釈する。予選に出走していれば、予選結果に関わらず完走していなくても全員の決勝進出が認められる。

### 2) S1 PRO クラス最高峰特化策

#### (1) S1PRO クラス参加登録制度【詳細：国内競技規則書 p355】

S1PRO クラスの選手最大登録人数=27 名

- 前年度全日本スーパーモト S2 クラス ランキング 1 位の選手も選択制とする。
- 前年度全日本スーパーモト S1PRO クラス ランキング 16 位以下の選手も希望すれば S1PRO クラスに登録可能とする。(選択制)  
 ただし最大登録人数を超えた場合はランキング上位の選手を優先とする。
- ◎ 上記登録者以外で、各大会においてグリッド数に達するまでワイルドカードが認められる。  
ただし、当該年度全日本スーパーモトにおいて、他のクラスに参戦実績のある選手は不可。  
 ⇒ 出場可否は主催者が最終判断する

#### (2) タイヤ制限なし

**2019 年からタイヤ使用本数制限は実施しません。(マーキングなし)**

従来通り、「ウェット宣言」は行いません。タイヤ選択はエントラントの自由とします。

#### (3) 表彰/賞金

##### ① S1PRO クラス賞金

S1PRO クラスは、決勝各レースに対して支払われます。

<賞金最低額> 1 位 25,000 円、2 位 15,000 円、3 位~6 位 5,000 円

◎賞金は源泉徴収がされます。(税率は 10.21%)

公式通知の賞金額掲載項に「上記賞金は税込金額です」と表記し、大会主催者は源泉徴収額を差し引いた額をお支払い下さい。なお、振込手数料は主催者負担とさせていただきます。

例) 賞金 50,000 円の場合

源泉は 5,105 円 になり、選手に実際にお渡しする金額は 44,895 円となります。

② 決勝2レースの結果の総合表彰については主催者の任意で実施してください。

### 3) チャンピオンおよびランキングの決定

2020 全日本スーパーモト選手権のチャンピオンおよびランキングは、全戦の合計ポイントで決定されます。(有効ポイント制は採用しない)

- S1 PRO / S2 クラス …全 14 レース (全 7 戦 各大会 2 レース)
- S1 OPEN クラス …全8戦

### 4) 部品買取り制度(継続) 【詳細：国内競技規則書 p377 部品の買取り制度】

全日本スーパーモト選手権において、3 位までに入賞した車両の対象部品の購入希望者がいた場合、当該車両のライダーまたはエントラントは規則により定められた価格にて当該部品を販売しなければなりません。

#### ■ 制度対象クラス

全日本スーパーモト選手権 全クラス(S1 PRO、S1 OPEN、S2)

※購入申請者は当該クラスレース参加者に限る

#### ■ 対象部品と価格

各クラス上位 3 位までに入賞した車両の下記部品

- ・ エンジンアッセンブリー 450cc ￥500.000 / 250cc ￥450.000  
(ミッション、カムシャフト、スロットルボディーを含み、スプロケットは除く)
- ・ フロントサスペンション(左右セット) ￥300.000
- ・ リアサスペンション(スプリング含む) ￥150.000

#### ■ 売買の主な流れ

- ① 購入希望者は暫定結果発表後 20 分以内に主催者に購入申請をする。(購入申請書、保証金(5 万円)、運転免許証のコピーを提出する。)  
※希望者が複数の場合は抽選 (抽選方法は主催者が決定する)
- ② 購入者が決定後、売主・購入者・主催者の 3 者で売買契約日(申請から 10 日以内)および場所を決定する。
- ③ ②で決定した日付、場所に売買契約を行い、購入者は売主に代金を支払う。

※売買契約がキャンセルされた場合、購入申請保証金は返却されず主催者に帰属するものとし、この制度に関わる作業にかかる経費に充てる。

### 5) ゼッケン

- ① 年間指定ゼッケン表に記載されているライダーは、指定されたゼッケン番号をシーズン終了まで使用します。
- ② ①に該当しないライダーは、当該シーズン初めて参加する大会の主催者によって割り当てられるゼッケン番号(原則として空き番号を順に使用)をシーズン終了まで使用します。  
※各大会で割り振った番号の重複を避けるため「使用ゼッケン番号リスト」を次戦に申し送りしてください。  
(所定エクセルに記入)

※リストにないライダーは、空き番号を順番に詰めて割り振ってください。

空き番号を飛ばして選手の希望する番号を振らないでください。

(シーズン前に年間希望ゼッケンを有料で購入している人への配慮が必要です)

### ③ ゼッケン書体

下記のフォントを参考にし、遠くからでも読みやすい状態であることを車検にて確認してください。

Futura Heavy

0123456789

Franklin Gothic

0123456789

Franklin Gothic Italic

0123456789

### ④ ゼッケンプレートの「主催者指定スペース」について

全日本選手権対象クラスのゼッケンプレート(フロントおよびサイド)の上部「主催者指定スペース」は大会主催者の定めるステッカー等を貼ることができます。

特に該当するものがない場合には、MFJ 事務局より提供する下記のロゴステッカーを貼付してください。

(各大会に配布します)



### ★ゼッケン規則遵守について

ゼッケンナンバーの書体に装飾文字等を使用している車両は大会運営(計時や実況、転倒車の確認)に支障をきたす恐れがあるため、規則遵守の指導を強化してください。

全日本選手権、および各エリア選手権において規則に違反している車両のライダーに対し、その場で嚴重注意および修正するよう指導してください。また、次戦主催者に申し送りし、次戦でも改善が見られない場合は出場を認めないという共通認識で運用してください。

## 3. スーパーモトエリア選手権

- 1) エントリー料 全エリア全戦統一料金とする。(2020 年)

スーパーモトエリア選手権 13,200 円 (本体価格 12,000 円+消費税(10%)1,200 円)

- 2) エリア選手権のレースフォーマット

＜エリア基本レース形式＞

公式練習 → 計時予選 → 決勝レース ( → 決勝レース2※)

※全日本併催の場合はなし

- 予選…計時予選のみとし、レース方式(ヒートレース)は行わない。
- 決勝…全日本選手権併催大会は決勝 1 レースで行う。

エリア単独開催大会(全日本併催でない)は、原則として決勝 2 レースとし、

タイムスケジュールの都合等、やむを得ない場合は 1 レースでも可とする。

※決勝 2 レース制のスターティンググリッドの決定方法は以下の通りとする。

レース1 : 予選結果の順とする レース2 : 決勝レース1の結果順とする。

- ポイント付与… 決勝レースごとに付与される。

- 3) ウェットタイヤの使用

エリア選手権全クラスにおいてウェットタイヤの使用が認められます。(2017 年改定)

#### 4) エリア参加者のライセンス昇格制度 (スーパーモト B 級⇒スーパーモト A 級)【規則書 p.61】

◎2019 年よりライセンス昇格条件として最低獲得ポイントが追加されました。

(2020 年は B 級 1 位かつ 40 ポイント以上)

10 月 31 日までに開催されるスーパーモトエリア選手権 S1 OPEN、S2、S3 クラスで、各エリアのシリーズランキングにおける B 級の上位 1 位かつ 40 ポイント以上獲得した選手はスーパーモト A 級に申請昇格できる。

※同点の場合は複数人可

#### 5) 「Mクラス」「MEクラス」の併催について (承認クラス)

＜MEクラス＞

主にモトクロスサーおよびエンデューロマシンなどのオフロード車両を所持しているライダーが、気軽にスーパーモト競技を楽しめることを目的とした承認クラスです。

スーパーモト競技の普及のため承認クラスである「M-1・M-2・M3・S4」「ME クラス」を、原則、エリア選手権にて開催をお願いします。

★ 公認車両でない場合、その他車両規則に合致しない場合や、初心者・エンジョイ志向のライダーの走行機会を増やすため、ご協力をお願いします。

## 4. 車検関連

車検時の装備のチェックの混雑緩和のため、参加者が各自装備のチェック(破損等)を事前に行い、また「混雑緩和のため参加者は車検場では MFJ 公認マーク位置を提示すること」を公式通知に記載してください。

#### 1) 車両変更について (車両ごと、フレームまたはエンジン単体を含む)

登録された車両の変更は原則として認められないが、その必要が生じた場合は所定の申請をおこない競技監督が認めた場合に限り変更が認められます。

##### ① 車両ごと変更することも可能 (2018 年～)

- 車検終了後の予選暫定結果発表後 20 分以内まで(それ以降は認められない)
- 予選終了後に車両変更をした場合は、決勝レースはピットスタートとする。

＜車両変更手続き＞

車両変更を希望する選手は、大会本部に車両変更届を提出し(車両ごと替える場合は車両仕様書も)、受理された後は、必ず車検を受け最終的な出場許可を得なければならない。

(車両変更手数料:5,000 円)

##### ② 識別打刻のないフレーム、エンジンに交換する場合は、打刻済みのアルミプレート貼り付けて、次戦以降の車両仕様書の認識番号として使用できる。(2018 年～)

＜主催者運用方法＞

- (1) 打刻済みアルミプレート、耐熱ボンドを主催者持ち回り機材に追加。
- (2) プレートには、種目、年度、フレーム or エンジン(E)、通し番号が打刻済み。  
(フレーム用: SM18-001～010、エンジン用: SM18-E001～E010)
- (3) 該当する車両に対し、耐熱ボンド(エポキシ材等)で貼りつける。
- (4) 該当車両の【クラス、ゼッケン、氏名、プレートの打刻番号】を次戦主催者に申し送る。

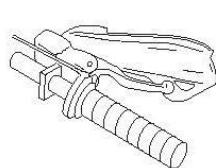
次戦以降は、貼り付けた打刻を車両仕様書に記入して使用できる。

※ 打刻のないフレーム、エンジンに交換する場合は、販売証明書または交換前の刻印のあるフレーム、クランクケースを車検場に提示してもらい確認すること。

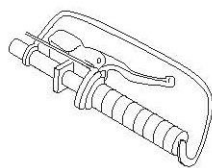
## 2) ハンドプロテクター

### <タイプ>

片持ちタイプ、およびハンドルバー先端(バーエンド)とハンドルバーの2ヶ所で固定される両持ちタイプのどちらも認められる。



OK



OK

### <材質>

非粉碎材質の樹脂製またはアルミニウム製でなくてはならない。(他の金属(樹脂ガードの内側に金属材質の支柱があるもの)、カーボンなどはNG)

## 3) ハンドルバーパッド

ハンドルバーパッドに埋め込みのラップタイムモニターの取り付けは禁止する。

## 4) オイルドレン・キャッチタンク

### <オイルドレン>

すべてのオイルドレンボルト(キャッチタンクのドレン含む)、フィラーキャップ、レベルゲージはワイヤーロックされなければならない。

### <キャッチタンク>

- 4 ストロークでは、最低 0.3 リットル以上の金属製のオイルキャッチタンクが確実な固定方法で取付けられていること。クローズドブリーザーシステムになっておりオイルブリーザーラインがエアクリーナーボックス(コネクティングチューブ含む)に連結されている場合はキャッチタンクをつけなくてもよい。

#### <統一解釈>

ベース車両がスーパーモト、モトクロス、エンデューロ用等の4ストロークMFJ公認車両で、エアクリーナーボックスおよびコネクティングチューブが公認車両のまま使用された場合は、その時点でクローズドブリーザーシステムが成立しており、オイルキャッチタンクの取り付け義務ありません(キャッチタンクは取り付けなくてOKです)。ただし、エアクリーナーボックスの下部に排水穴(水またはオイル抜き等の穴およびドレンパイプ)が開いている場合は、オイルが漏れないように穴およびパイプを塞いでください。

この状態で、エアクリーナーの吸気口を拡大する場合は、公認車両のエアクリーナーのオリジナルの吸気口より上側に穴を拡大してください。

エアクリーナー(コネクティングチューブを含む)を改造する、オイルブリーザーホースを変更する、エアクリーナーの吸気口をオリジナルの位置より下側に拡大する、公認車両以外の車両を使用する場合および2ストロークのミッションブリーザーホースが大気解放になっている場合等は規定の金属製オイルキャッチタンクを取り付けてください。

※キャッチタンクのチューブの固定方法は、タイラップでもとにかく固定すれば OK(差し込むだけは NG)。

- ラジエターオーバーフローパイプおよび燃料タンクブリーザーシステム用に、1つまたはいくつかの漏れ防止の施された最低容量 150cc 以上のキャッチタンクが取り付けられていなければならない。
- ノンリターンバルブを燃料タンクブリーザーパイプに取付なくてはならない。

#### <統一解釈>

- ① ラジエターオーバーフローパイプと燃料タンクブリーザーシステム用パイプを1個のキャッチタンクで供用することも可能です。ラジエターオーバーフロー用と燃料タンクブリーザーシステム用のキャッチタンクをそれぞれ独立して(2個)使用することも可能です。

※ 併用する or それぞれ独立して使用する、いずれの場合もタンク1個につき最低容量 150cc 以上が必要です。

- ② ベース車両がスーパーモト、モトクロス、エンデューロ等の MFJ 公認車両で、燃料タンクおよびフ

フィルターキャップが公認車両から改造なしで使用された場合で、フィルターキャップブリーザーホースの先端にノンリターンバルブ(アフターパーツを含む)を取り付けた場合は、燃料タンクブリーザーホース用のキャッチタンクの取り付けは免除されます(取り付けなくて OK です)。  
フィルターキャップを改造した、または変更(アフターマーケット品含む)をした場合はキャッチタンクを取り付け、フィルターキャップブリーザーホースの先端をキャッチタンクに挿入してください。

## 5) ホールショットデバイス・その他の改造範囲について

現行規則の解釈として、モトクロス基本仕様(付則 17)に合致している車両であれば、国内モトクロス技術仕様(付則 18)は適用されず(=国内モトクロス技術仕様の範囲も改造が認められる)、ホールショットデバイスの使用も制限しない。

## 6) ライダーの装備

### ① ヘルメット特別検査制度の廃止

昨年まで、競技会の車検時に公認マークの貼付されていないヘルメットは型式が公認モデルであれば特別検査料を徴収し、現場でヘルメットマークを貼付していましたが、近年並行輸入やネット購入が増え、正規代理店を経由しないものが見受けられることから、2018 年から車検でマークを貼るサービスは行わないことになりました。

下記をご確認いただき、公式通知での事前告知、ならびに大会現場でのご対応をお願いいたします。

#### ●車検時に公認マークの無いヘルメットが持ち込まれた場合の対応

- ◎ 大会会場にヘルメットレーシングサービスがない場合は型式を確認し公認製品であれば誓約書(別添)を取り使用を認める。
  - ※ 次大会までにライダーからメーカーもしくは輸入代理店に連絡し、マークを貼付いただくようにしてください。
  - ※ メーカーの連絡先は、MFJ 国内競技規則書の末尾の公認リストもしくは MFJ ホームページに掲載しています。
- ◎ 全日本選手権等で当該ヘルメットのレーシングサービスが来場している場合はレーシングサービスへ行き貼付するよう指示してください。

#### ●公式通知に以下の記載例の通り記載してください。

##### 【ヘルメット公認マークについて】

競技会に使用するヘルメットは MFJ が公認する製品でなければならず、公認ヘルメットには MFJ 公認マークが貼付されています。

近年、並行輸入やネット通販等の流通の変化から、正規輸入代理店を経ない製品がありますが公認を受けた製品とは仕様が異なったり、コピー商品があることから、MFJ 公認マークが貼付されていない製品は競技会に使用することはできません。

公認マークが剥がれてしまった場合、今までは競技会の車検において型式確認の後、特別検査料を徴収しマークを貼るサービスを行っていましたが、今後は製造メーカーまたは正規輸入代理店(MFJ 国内競技規則書巻末付録頁参照)にご連絡いただきマークを購入いただくようになりましたのでご注意ください。

- ★ ヘルメットに公認マークが貼付されていない場合については、「ヘルメット誓約書」を参加者に記入していただき、当該大会は出場を認め次回大会までにマークが貼り付けを誓約していただいてください。

### ② グローブ・ブーツ

#### <グローブ>

規則に定める通り「最低 50mm がレーシングスーツの袖口と重なり合う長さ」のものを使用すること。

手首丈のグローブ、または手首丈のグローブに皮革を足したものは認められません。

#### <ブーツ>

規則に合致する材質、形状、長さを満たしていればロード用でも OK。

### ③ 装備の破損や劣化等のチェック

ヘルメットおよびレーシングスーツについて、国内競技規則書 p327,328 に“使用が認められない例”が記載されているのでご確認ください。

### ④ ウェアラブルカメラは禁止

ヘルメットおよび装備品にウェアラブルカメラの装着することは禁止です。(ヘルメット・ゴーグル・ウェア・グローブ・ブーツ等に装着不可)

### ⑤ オンボードカメラ

車両へのカメラ搭載は、定められた取り付け位置で、主催者へ所定の書式で申請して認められた場合のみ認められます。

※ 脱落の危険性がないようボルト固定されている(またはそれに準ずる固定方法)ことを車検にて確認する。

※ ケースが破損した場合でもカメラ本体が落ちないように対策をしてもらうこと。

#### <取付可能位置>

- フロントフェンダー上またはリアフェンダー上
- フロントゼッケンプレート後部(ハンドルバーとの間で、ハンドルバーパッドの高さを超えない高さの範囲)も認められます。



### ⑥ ライディングウェア(ツナギの着用は必須)

レーシングスーツの上に皮革製以外のウェア(モトクロスジャージ等)を着用することは認められる。ただし、体にフィットしておりマシン等に巻き込まれる可能性がないものでなければならない。⇒ 使用可否の最終判断は、各大会の車検にて行う

## 2) 音量測定について 【詳細：規則書 p403】

### ◎ 音量測定は全車2mMAX方式 規制値=全日本・エリアともに最大114dB/A

※騒音計許容誤差なし

※計測中の車両の周囲5mは90dB/A以下であること ※小数点以下は切り捨てしない。

### ◎ 全日本スーパーモトの運営統一化のため騒音計を含む下記の計測機材を持ち回ります。

騒音計 Lion NL-20、タイヤ固定治具、測定カバー、巻尺1個、下げ振り、ペグ5本)

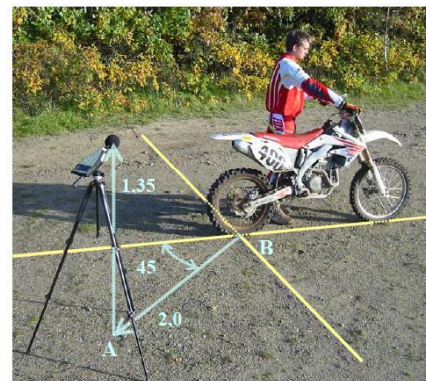
## ■ 2mMAX 方式とは？

2m MAX法は、フル加速状態の車両から発せられる音響パワーレベル(LwA)と高い相関があり、停止状態で急速に最大回転数まで運転したときの最大音圧レベルを測定するものである。  
計測は、スタンドを使用せず、エンジンが温まった状態で行う。  
アイドリング状態からスロットルを速やかに全開にし、Revリミット状態を1～2秒維持してスロットルを閉じる。

※ 車検における音量測定時の安全対策として音量測定時にはクラッチを切る、また、タイヤ固定治具を確実に固定してください。

※ サイレンサーが1本を超えるエンジンの音量計測は、いずれか一方のエキゾーストパイプの先端で計測される。(必要に応じて両方の先端で測定する)

※ 走行モード切替えスイッチがある車両については、走行時と同じモードで計測する。  
必要に応じてすべてのモードで計測を行うことができる。



## ■ 2mMAX 方式における音量規制値

|            |      | 全日本・エリア 全クラス (小数点以下切り捨てなし) |
|------------|------|----------------------------|
| 車検時        | 規定値  | 114.0 dB/A 計測機器許容値なし       |
|            | 合格値  | 114.0 dB/A                 |
| レース終了後(+1) | 許容範囲 | 115.0 dB/A                 |
|            | 合格値  | 115.0 dB/A                 |
| 車両違反       |      | 115.01 dB/A 以上             |

## 3) 全日本選手権での音量測定の簡素化(継続)・・・【詳細別紙「音量測定運用について」】

音量測定の運用形態を下記の通りとする。以下の運用形態を適用するか否かは、選手側の判断とし、個々の大会において自己責任において音量に関する規則を適合させることを条件とします。

### <運用方法>

- 第1戦にて、すべての参加者の車両全車の音量を実施する。  
2mMAX 方式にて実施する。合格車両にはサイレンサーマーキングが施される。  
2mMAX にて合格しない場合は、固定回転での音量測定を実施する。
- 第2戦以降は、第1戦のサイレンサーをそのままマーキングを残している状態でかつ、参加者自身が自己責任において音量値規定内におさめることを条件に音量測定を受けなくても良い。ただし、レース後の測定で音量値がオーバーしている場合は選手側の責任とし、罰則が適用される。
- 第2戦以降は、新規参戦者およびマーキングのないサイレンサー車両は音量測定を受けなければならない。ただし、次戦以降は、上記2)については任意の音量測定とする。
- 決勝レース終了後は、上位6名の音量測定を実施する。
- 主催者は、任意で音量測定を実施することができる。(個別またはクラス全員に対して)

### ◆ 参考:2m MAX と固定回転方式の計測

|            | 2m MAX 方式                                                               | 固定回転方式                                                                                       |
|------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 音量計 特性     | A特性 (周波数補正回路 A)                                                         | ←                                                                                            |
| 重み特性 (時定数) | FAST                                                                    | SLOW                                                                                         |
| 測定レンジ      | 40～130db/ A                                                             | ←                                                                                            |
| 測定位置       | 騒音計は、車両の後輪中心からエキゾースト側の斜め45度後方2m、かつ高さは地上から1.35mのところに設置。<br>やわらかな土の上で計測推奨 | 計測のためのマイクロフォンの位置は排気管後端から500mmで、かつ中心線から後方45°で排気管と同じ高さとするが、少なくとも地面から20cm上方でなくてはならない。もしこれが不可能な場 |

|                 |                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                     |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 |                                                                                                                                                            | 合、計測は 45° 上方で行ってもよい。                                                                                                                                                |
| 計測方法<br>(タイミング) | アイドリング状態からスロットルを速やかに全開にし、Revリミット状態を <u>1～2秒維持</u> してスロットルを閉じる。                                                                                             | ギヤはニュートラルとしてエンジンを回転させ、所定の回転数域に達するまでエンジンの回転を増していかなければならない。測定は、所定の回転数に達した時に行う。                                                                                        |
| 音量値             | 最大音量は <b>114 dB/A</b><br><br>騒音値の小数点以下切捨ては行わない。                                                                                                            | 4 ストローク 94dB/A<br>2 ストローク 96dB/A<br>騒音値の小数点以下を切捨てとする。<br>(100.9dB/A=100dB/A)                                                                                        |
| 許容誤差            | <ul style="list-style-type: none"> <li>レース後の最終検査においては、+1 dB/A 許容誤差が認められる。</li> <li>音量測定時の外気温の許容誤差は考慮されない。</li> <li>使用される騒音計の許容誤差：<br/><b>なし</b></li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>レース後の最終検査においては、<b>+2dB/A の許容誤差が認められる。</b></li> <li>音量測定時の外気温の許容誤差は考慮される。</li> <li>※1 固定回転方式には、計測時の外気温の許容誤差も認められる。</li> </ul> |

## 5. コース

### 1) コース設定ガイドライン

コース設営にあたっては、「MFJ スーパーモトコース設定ガイドライン」(本紙 P19 参照)に準ずる。

### 2) 走行コースの明確化

競技会開催にむけてコース設営をするにあたってはレーシングコース(舗装路)およびダートセクションのコースを明確にして、疑義の生じないように心がけてください。

#### <走行の目安>

- オンロード：** 白線の内側  
**オフロード：** テープの内側  
**縁石：** 乗りあげても走行してもノーペナルティー  
**その他①：** タイヤパイロン等でコースが仕切られている場合は、その内側  
**その他②：** 縁石等を使ってジャンプして、空中でショートカットした場合は罰則対応  
**その他③：** 緊急回避の場合のショートカットは罰則の対象としない

#### ① ロードコースの走行路

- レーシングコース(舗装路)の走行路は、コース両端の ホワイトライン内側 と定める。
- 縁石内側のインフィールドを利用し、「有利となる走行(ショートカットなど)」できないように、パイロン等などの対策をする。
- タイヤ、パイロン、杭などの設置する場合は、安全性を考慮して設置
- 参加者に、設置物の位置と設置物との接触などないように告知の徹底

**特に、以下のケースに該当する場合は、確実に参加者に公示、通達してください。**

- ✓ **レーシングコース(舗装路)およびダートセクションを設営する上で、ホワイトライン上およびホワイトラインカット、縁石の内側を走行路(走行可能)としなければならない場合**
- ✓ **レーシングコース(舗装路)にホワイトラインの設定がない箇所の走行路の案内**

#### ② ダートセクションの設定について

ダートセクションの走行路は、杭およびコーステープ等にてコースを明示し、「杭の倒れやコーステープの破損等」の想定箇所は、ライダーの安全を考慮した上で、杭の数本による固定や盛り土など等

で、走行路を設定する。また、有利となる走行(ショートカットなど)にならない様に注意する。特に、ダートセクションとロードコースをつなぐ部分のイン側の対処。

### 3) クラスによるコース設定の差別化

- 全日本 S1 PRO クラスは、他クラスとの差別化を図るため、コース規定に定める内容に加え、可能な範囲でダートセクションなど設定を変更、追加することも可能とする。
- エリア選手権においては、参加者ニーズに合わせたコース設定可能とすることが認めらる。  
(ダート比率の変更など)
- スタート位置がダート上の場合、スターティングマシンを使用したモトクロス式のスタート方法を認めらる。  
(スタート進行は特別規則または公式通知により公示してください。)

### 4) 安全性の確保

コース設営にあたっては、観客の安全性を優先し、観客の立ち入り禁止区域や導線が交差する場所など、危険箇所はあらかじめ看板を設置する等、対策を施してください。  
(特にピットレーン付近やダート区間のコースサイド、ジャンプ付近など)

### 5) スターティンググリッドについて

FIM スーパーモトの基準スターティンググリッドを全日本スーパーモト選手権の推奨グリッドとして採用する。

#### ① グリッド間の距離(横幅)

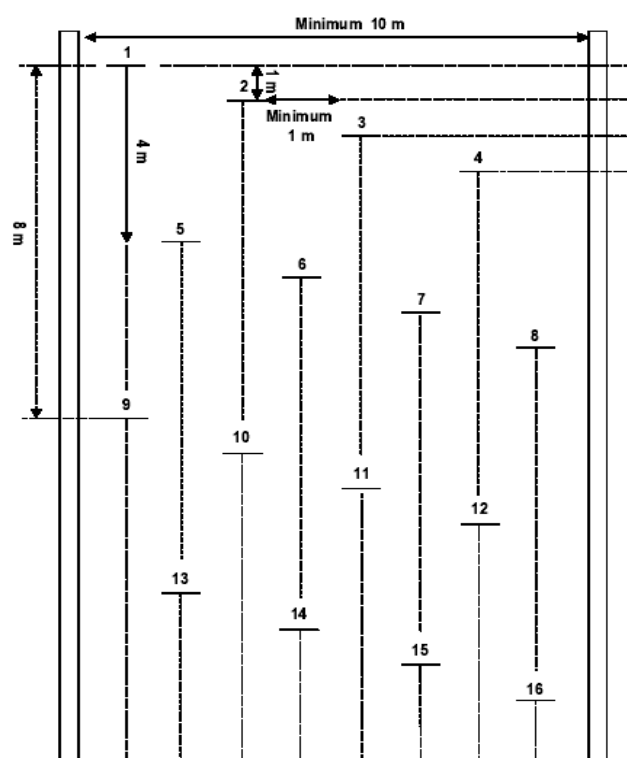
グリッド間の最低距離を現行 1m 以上とし 2m 設定を推奨

#### ② スターティンググリッドの配列

階段式のグリッドを採用する。ただし配列は、スタートのコース幅を考慮し、以下のグリッド配列を主催者が決定する。

1. 4-4-4
2. 4-3-4
3. 3-3-3

#### ③ ポールポジション位置は、アウトフロントを基本とする。



## 6. その他競技会運営内容の確認事項

### 1) 表彰

＜総合表彰が行われる場合の順位決定方法＞

決勝 2 レース制で総合表彰がある場合、合計ポイントによる総合順位が同点の場合は 2 レース目の順位が上位の方を優先とします。

### 2) ライダーの健康に関するガイドライン 【詳細：規則書 p.46】

#### ① 負傷からの競技復帰について

疾病および傷害から復帰する際は、医療機関にレース復帰が許されているか確認してください。（診断書の持参を要求する場合があります。）

#### ② 脳震盪について

転倒などで脳震盪が疑われる場合は、医療機関で受診するようにしてください。

短期間に 2 度の脳震盪を起こすことは非常に重大な障害をもたらす恐れがあり、また症状を抱えたまま走行することは他のライダーに危険を及ぼす可能性もあることを認識しましょう。

#### ③ 熱中症について

この数年猛暑の夏が続き熱中症の危険性が高くなっています。熱中症事故は適切に予防すれば防げるものです。予防の例としてはレース前にスポーツドリンクを補給することなどがあります。暑い環境でレースを開催する際は、参加者、また観客に対し放送等で熱中症予防を呼びかけてください。

#### ◎ メディカルパスポートの携帯について

ライダー及びチームは競技参加ライダーの健康状態を把握するために「メディカルパスポート」を常に携帯し、メディカルドクターにいつでも提出できるようにしてください。

⇒ 可能な限り、受理書発送時にメディカルパスポート用紙を同封お願いします。  
(用紙は MFJ ホームページからダウンロードできます。)

### 3) 競技結果（リザルト）の発行について

#### ① リザルトに必ず記載する付随項目

- (1) 大会名とクラス
- (2) リザルトの種類（暫定結果か、正式結果）
- (3) 予選・決勝の出走台数
- (4) 発表時間
- (5) 署名人（以下(3)参照）
- (6) 罰則等

#### ② リザルトについて

- リザルトのライダー氏名について  
ライダー氏名に愛称やニックネーム等が記載されている場合、リザルトに記載する氏名はライセンス記載名（本名）と同一のものとすること。（ポイント管理に支障をきたすため）
- ライセンスNO. の記載のお願い  
ポイント管理を円滑にするために、リザルトにはライダー氏名とあわせてライセンスNo. を記載してください。

● 出走有無のリザルト表記の明確化

予選出走したか否か明確にするため、以下のとおりとする。※「DNS」は不可

- ① 予選出走でノータイムのもの …「出走のみ」または、「計測できず」
- ② 予選に出走しないもの（未走行） …「出走せず」
- ③ 決勝スタートのみ …「0」または「スタートできず」

③ リザルト発行種類と署名

ヒートレース結果表、決勝グリッド、競技結果に対する署名は、計時長、競技監督、審査委員長のものが必要とされ、他は計時長、競技監督の署名のみとする。

| 種類             | 参<br>考 | 暫<br>定 | 正<br>式 | サイン                | 備考                         |
|----------------|--------|--------|--------|--------------------|----------------------------|
| タイムアタック組別予選結果表 | ○      |        |        | 計時長                | 2組の場合                      |
| タイムアタック予選結果表   |        |        |        | 計時長・競技監督・<br>審査委員長 | 1組の場合でそのまま決<br>勝の場合、グリッド表へ |
| タイムアタック予選総合結果表 |        |        |        | 計時長・競技監督           |                            |
| ヒートレースグリッド表    |        |        | ○      | 計時長・競技監督           |                            |
| ヒートレース組別結果表    |        | ○      |        | 計時長                | 組別の場合                      |
| ヒートレース結果表      |        | ○      | ○      | 計時長・競技監督・審査<br>委員長 | 組別の場合                      |
| 決勝グリッド表        |        |        | ○      | 計時長・競技監督・審査<br>委員長 |                            |
| 決勝結果           |        | ○      | ○      | 計時長・競技監督・審査<br>委員長 |                            |

④ リザルトの報告

大会終了後、翌月曜日までに決勝リザルトを MFJ 本部に FAX してください。(開催報告書とは別)

※MFJ 本部から職員が派遣されている場合には直接お渡しください。

その際に所定フォームに、開催日、大会名、主催者名、天候、観客数、予選出走台数をご記入いただき合わせてご送付ください。(リザルトの WEB 掲載およびランキングポイント処理のためご協力お願いします。)

⇒ MFJ 本部 FAX:03-5565-0907

## 2020 年 MFJ 全日本スーパーモト選手権シリーズカレンダー

| 日程                           | 会場                                                                     | 主催者（連絡先）                                                                                                     | エントリー期間                     |
|------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 4 月 4 日(土)<br>～5 日(日)        | 全日本スーパーモト選手権シリーズ第 1 戦<br>会場: 茂原ツインサーキット(千葉)<br>TEL: 0475-25-4433       | SMJ (Super Moto JAPAN)<br>〒721-0966<br>広島県福山市手城町 1-1-5<br>うず潮レーシング福山内 SMJ<br>TEL084-924-2935 FAX084-931-4096 | 2 月 25 日(火)<br>～3 月 5 日(木)  |
| 5 月 16 日(土)<br>～17 日(日)      | 全日本スーパーモト選手権シリーズ第 2 戦<br>会場: HSR 九州(熊本)<br>TEL: 096-293-1370           | HSR 九州<br>〒869-1231<br>熊本県菊池郡大津町平川1500<br>TEL 096-293-1370 FAX 096-293-1371                                  | 4 月 7 日(火)<br>～4 月 16 日(木)  |
| 6 月 13 日(土)<br>～14 日(日)      | 全日本スーパーモト選手権シリーズ第 3 戦<br>会場: エビスサーキット(福島)<br>TEL 0243-24-2972          | エビスサーキット<br>〒964-0088<br>福島県二本松市沢松倉1番地<br>TEL 0243-24-2972 FAX 0243-24-2936                                  | 5 月 5 日(火)<br>～5 月 14 日(木)  |
| 7 月 11 日(土)<br>～12 日(日)      | 全日本スーパーモト選手権シリーズ第 4 戦<br>会場: グリーンパーク弘楽園(広島)<br>TEL 0847-27-1755        | SMJ (Super Moto JAPAN)<br>〒721-0966<br>広島県福山市手城町 1-1-5<br>うず潮レーシング福山内 SMJ<br>TEL084-924-2935 FAX084-931-4096 | 6 月 2 日(火)<br>～6 月 11 日(木)  |
| 8 月 8 日(土)<br>～9 日(日)        | 全日本スーパーモト選手権シリーズ第 5 戦<br>会場: スポーツランド SUGO 西コース(宮城)<br>TEL 0224-83-3111 | スポーツランド SUGO 西コース<br>〒989-1394<br>宮城県柴田郡村田町菅生6-1<br>TEL 0224-83-3111 FAX 0224-83-3790                        | 6 月 30 日(火)<br>～7 月 9 日(木)  |
| 9 月 19 日(土)<br>～20 日(日)      | 全日本スーパーモト選手権シリーズ第 6 戦<br>会場: 名阪スポーツランド(奈良)<br>TEL: 0743-87-0007        | SMJ (Super Moto JAPAN)<br>〒721-0966<br>広島県福山市手城町 1-1-5<br>うず潮レーシング福山内 SMJ<br>TEL084-924-2935 FAX084-931-4096 | 8 月 11 日(火)<br>～8 月 20 日(木) |
| 10 月 17 日<br>(土)<br>～18 日(日) | 全日本スーパーモト選手権シリーズ第 7 戦<br>会場: 美浜サーキット(愛知)<br>TEL: 0569-87-3003          | SMJ (Super Moto JAPAN)<br>〒721-0966<br>広島県福山市手城町 1-1-5<br>うず潮レーシング福山内 SMJ<br>TEL084-924-2935 FAX084-931-4096 | 9 月 8 日(火)<br>～9 月 17 日(木)  |

## 2020 スーパーモトエリア選手権カレンダー

| 地域     |   | 開催日  | 会場           | 主催者(エントリー先)  |
|--------|---|------|--------------|--------------|
| 東日本エリア | ① | 4/5  | 茂原ツインサーキット   | SMJ          |
|        | ② | 6/14 | エビスサーキット     | エビスサーキット     |
|        | ③ | 8/9  | スポーツランド SUGO | スポーツランド SUGO |

|        |   |        |           |     |
|--------|---|--------|-----------|-----|
| 中日本エリア | ① | 5/10 ★ | 美浜サーキット   | SMJ |
|        | ② | 9/20   | 名阪スポーツランド | SMJ |
|        | ③ | 10/18  | 美浜サーキット   | SMJ |

|        |   |        |              |        |
|--------|---|--------|--------------|--------|
| 西日本エリア | ① | 5/17 ★ | HSR 九州       | HSR 九州 |
|        | ② | 7/12   | 世羅グリーンパーク弘楽園 | SMJ    |

★決勝2レース(各レースにつきポイント付与)

## MFJ スーパーモト コース設定ガイドライン

2018 年 11 月 20 日策定

MFJ スーパーモト委員会 内規

### 【1】コース概要（構成）

スーパーモトのコースは舗装（ターマック）部分を基本とし、下記のどれか一つまたは両方がコースの一部に含まれる事が望ましい。

- (1) 人工的な障害物が設置されたオフロードまたは舗装路のセクション（ジャンプ、テーブルトップ等）
- (2) オフロードセクションの直線及びコーナー（フラットまたはバンク付き）

### 【2】コースの長さ

コースは 800m 以上 1750m 以下を基本とする。ただし、安全上および運営上の理由により 800m の長さが確保できない場合は、最低限 500m 以上の長さがあれば競技の開催が認められる。

※コースの長さは、コースセンターラインの長さを基準とする。

### 【3】コースの幅

使用可能なコース幅は一番狭い部分で 6m（実際マシンが走行できるコース幅）以上で、スタート後のストレートおよびスタート直後の最初のコーナーは最低限 10m（実際に走行できるコース幅）以上を確保することが望ましい。

コースは急激に狭くなるような形状になっている場所がないこと。

### 【4】コース上部の空間

コース路面とそのコース地点の上部との間は最低 3m 以上何も無い空間を確保しなければならず、特にジャンプやテーブルトップを設置する場合は、その上部に固定された障害物があってはならない。

### 【5】観客席および観客に対する安全管理

一般の観客（競技関係者以外の人）がコース内に立ち入りが出来ない様に、フェンス等で明確に誰でもわかるような区分けを行い、必要に応じてオフィシャルや警備員等を配置する等の安全管理が行われなければならない。観客用フェンスとコースの端にはセーフティーゾーンが確保されており、このセーフティーゾーンの幅は周囲の状況で変更しても良いが、どの様な場合でも最低 2m 以上が確保されていること。

このセーフティーゾーンの外側には、一般の観客の管理および保護が可能な強固な固定物または高いフェンスが設置され、観客側と区別されていなければならない。

### 【6】ライダーに対する安全管理

コースのレイアウトはライダーの安全を第一に考えて設定されていなければならない。特に注意しなければならない点は、ジャンプの接地場所およびジャンプ路表面の形状である。ジャンプの着地点はライダーのコントロール性を考慮し、より容易に着地できるように配慮した形状にすること。

ジャンプおよびテーブルトップ等を設置する場合は、入口のコース幅より出口のコース幅が狭くならない様にする。

### 【7】フラッグマーシャルポスト

フラッグマーシャルポストは競技者がレースを行っている間中、フラッグシグナルによる情報をライダーに与えられるように、コースの全周に渡って必要な人数が設置されていなければならない。マーシャルポストはライダーから見易い旗や表示が出せる様な位置に設定され、確実な指示が出されなければならない。

マーシャルポストには、夫々のポスト番号が表示されること。

マーシャルがいる場所は安全性を最優先にして設定すること。

マーシャルポストは、マーシャルによってコース全体の視界が確保できる様な位置にうまく設置されていること。